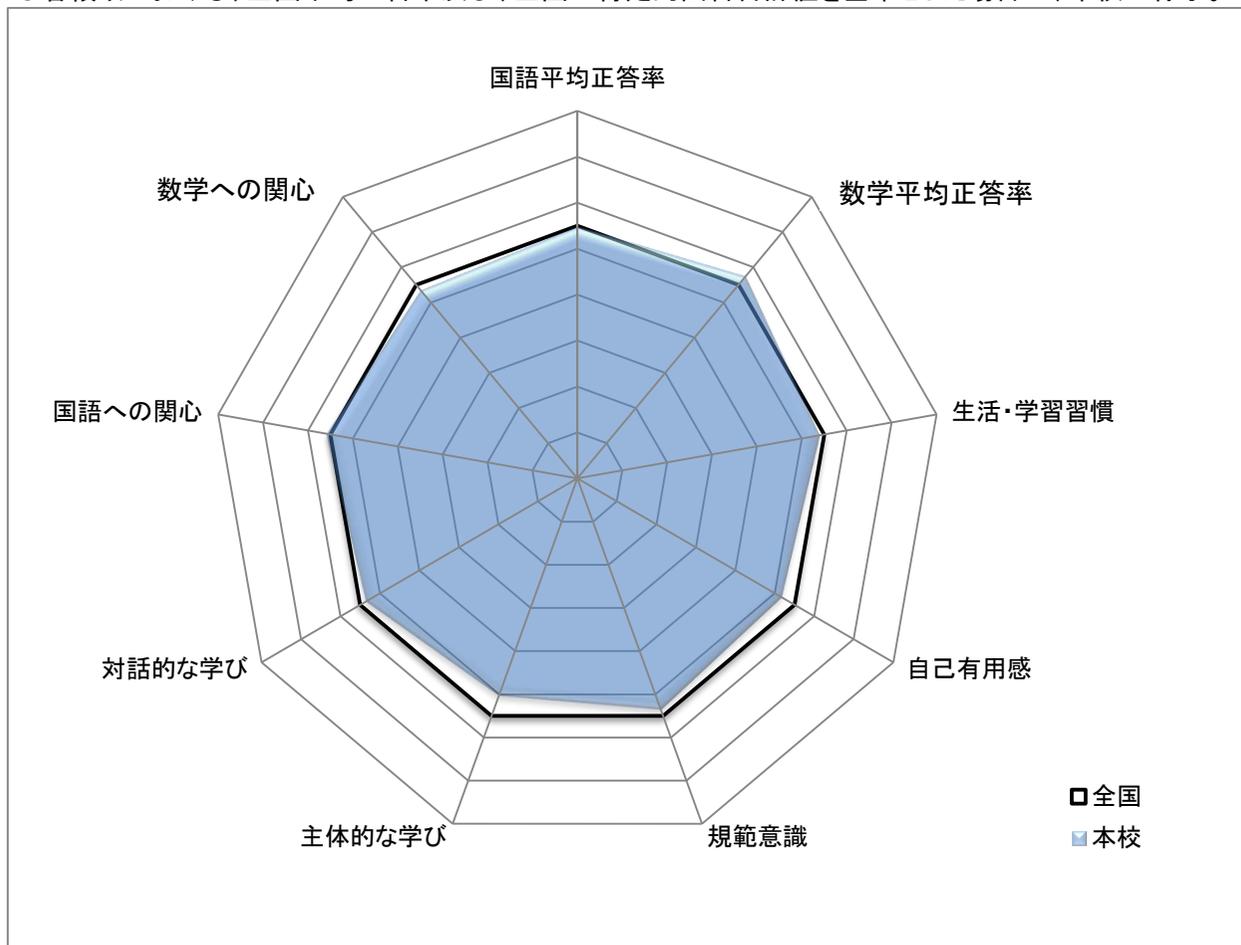


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

レーダーチャートを見ていくと分かるようにほとんどの項目で全国平均と同程度である。全国平均と比較して細かく見ていくと、生徒質問紙からわかる「生活・学習習慣」が0.98、「自己有用感」が0.93、「規範意識」が0.97と若干低かった。「主体的な学び」が0.91、「対話的な学び」が0.97とこちら若干下回っていた。「国語への関心」は1.02と少し上回った。「数学への関心」については0.97であり、ほとんどの生徒が学習に前向きに取り組もうとしていることがうかがえる。

国語の平均正答率は1.00で全国平均であった。数学の平均正答率は1.05で全国平均をやや上回った。今後も全国平均を維持、または上回れるように取り組んでいくことが重要であると考えます。

《現状把握》

【国語】  
 全国平均 -0.6ポイント  
 評価の観点においては全国平均とほぼ変わらなかった。書く能力は全国平均+1.1ポイントであった。言語についての知識・理解・技能においては全国平均-2.9であった。

【数学】  
 全国平均 +2.8ポイント  
 評価の観点3項目ともに全国平均を上回っている。数学的な見方や考え方は全国平均+3.4、数量や図形などについての知識・理解は+3.3であった。

《授業改善のポイント》

【国語】  
 「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること」や「書いた文章を読み返し、語句や分の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと」は長けている一方で、「相手や場に応じて敬語を適切に使うこと」が苦手な傾向なので、生徒たちの語彙が増し、考えが深まる授業の実践を心掛ける。

【数学】  
 ほとんどの項目でも出題の趣旨をとらえることができている。唯一下回った項目は「与えられたデータから中央値を求めることができる」であった。生徒の習熟度に合わせて授業展開を心掛け、単元内容に合った指導をする。

一人一台タブレット端末があるので、ICTを活用した取り組みを行っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

学校に対して協力的な家庭が多い。コロナの影響でなかなか集まることができないが、学校便りや学年便りなどを通して本校の現状などを伝えている。また、保護者会や三者面談などで家庭学習の大切さや生活習慣・生活リズムの重要性など呼びかけ、学力の定着を図っていく。